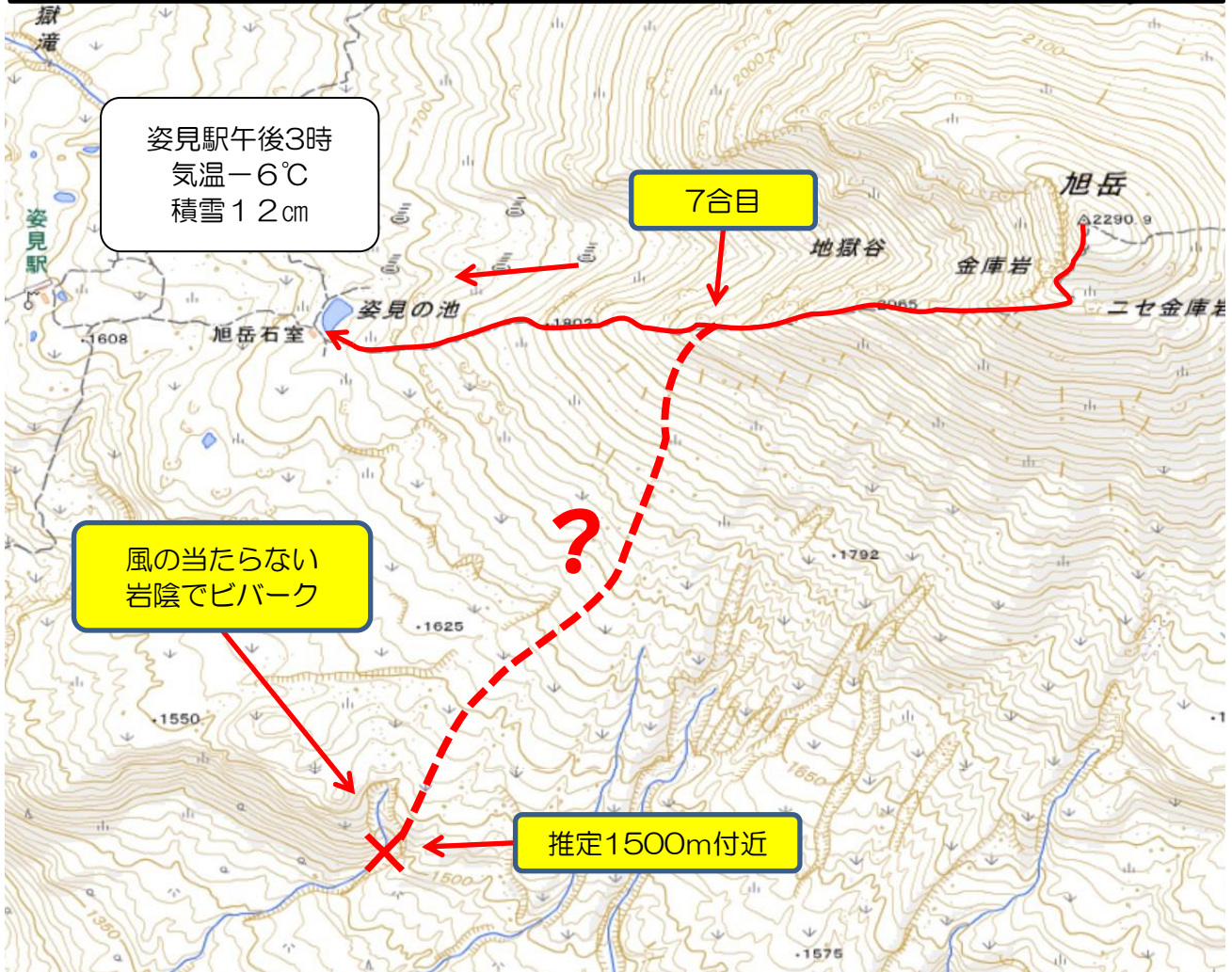


旭岳遭難(2017年10月)

60~70代の夫婦と20代2名が途中で一緒になり合計4名が道迷い遭難。雪が降る中、一晚を軽装で過ごし、翌日発見され、翌々日に無事救助された。



解説

60~70代の夫婦と20代2名が途中で一緒になり4名が道迷い。午後7時35分ごろ警察に救助要請。翌日午前7時40分ごろ4人が無事の電話を警察に入電。警察と自衛隊が捜索し遭難者が照らすライトや足跡を見つけ午後5時40分ごろ4人を発見。その晩は救助隊とともにテント泊し、翌日ヘリコプターで無事救助された。

10月中旬の北海道は、雪が降る。雪山を想定した装備やビバーク装備(ツェルト)をもって登山する必要がある。次に、天候不順で視界が悪い場合は7合目辺りは尾根が緩やかになり、夏道から逸れて南斜面に道迷いするケースが過去にも発生している。

今回は、合羽を着て一晚過ごされたとのことだが、日帰り装備でも十分な防寒着等の必要性やライトの明かりで現在位置を救助隊に知らせることができたことなど、参考にできる事例となった。

また、参考にさせていただいたHPIは事故概要、事故現場の地形図、遭難者の装備、事故当時の気象、まとめが書かれており、非常に参考にさせていただきました。